

令和 8 年度佐賀県中学校総合体育大会
(軟式野球) 競技 申し合わせ事項(案)

○ 熱中症対策について（全競技）

※休憩時間・休憩及び給水タイムの設定や回数等

- ① 4 回， 7 回終了時に給水タイムを 5 分間とる。
※ベンチから出ずにしっかり休養する。
※給水タイムの終了 1 分前から、次のイニングに登板するピッチャーを含む 1 組は、キャッチボールをしてもよい。
- ② タイブレーク方式になった場合は， 2 回終了ごとに給水タイムを 3 分間とる。
- ③ 次の試合の先発投手に限り， 4 回終了後，ブルペンでの投球練習を行うことができる。

○ 熱中症対策のためのルールや競技方法の変更について

※7月集中開催屋外競技（軟式野球・ソフトテニス・サッカー）

※気温や暑さ指数（WBGT 値）が危険域に達した場合など総合的に判断し、適応する

- ① 暑さ指数（WBGT 値）が 31℃に達すると予想される場合については， 2 回， 6 回終了時に 3 分間の給水タイムを追加する。
- ② 守備時間が長引いた場合，イニングの途中であっても 1 分間の給水タイムを設ける。その際，監督，コーチおよび保護者などが選手と打合せをすることは一切できない。（20 分を超える場合には，本部・審判団が判断し，打者のプレイ完了後にタイムを設ける。）

○ 連絡・確認事項について

- ① 投手の 12 秒及び 20 秒ルールの取り扱いについては， 2026 全日本軟式野球連盟競技者必携に準ずる。
- ② DH 制は適用しない。
- ③ その他の事項については，令和 8 年 4 月 4 日（土）ドゥイニング三日月にて行ったマルエス旗抽選会で配付した「佐賀県中学校体育大会野球競技 R 8 版特別規定」に則り実施する。
【別紙を参照】
- ④ 雨天等，悪天候時は試合時間制限を設ける場合もありうる。
- ⑤ 雷鳴が聞こえた時点で試合を一時中断する。最後の雷鳴から何もない状態が 30 分経過してから試合を再開する。
- ⑥ 悪天候等で日程が消化できなかった時は，日程や試合会場が変更する場合もありうる。
- ⑦ サスペンデッドゲームを適用した場合は，会場や審判員等の変更もありうる。また，試合が実施されるまでサスペンデッド状態は継続する。

佐賀県中学校体育大会軟式野球競技 R 8 版

特 別 規 定

【競技を行うにあたって】

- 1 1チーム9名からの参加を認める。(ただし、連盟主催は10名必要)
- 2 ベンチには登録された監督・コーチ・選手以外は入れない。
- 3 外部指導者のベンチ入りは県中体連評議委員会において承認された者に限る。またベンチ入りに際しては、県中体連発行の外部指導者証を付ける。
- 4 監督等の服装については、次の通りとする。
 - (1) 監督は選手と同じユニフォームを着用し、背番号30番をつける。
 - (2) コーチは選手と同じユニフォームを着用し、背番号29番・28番をつける。または、平服(ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ。ただし、女性は考慮する。)に選手と同一の野球帽とする。ただし、ノックを行う場合はユニフォームで行う。
 - (3) サングラスは使用しない。事情がある場合は大会本部の許可を得る。
 - (4) シューズについては、選手と同色(白または黒の一色)のアップシューズまたはスパイクとする。
- 5 選手、監督等のユニフォームの着用について
 - (1) 見苦しくないように着用する。
 - ① 上着の裾を出さず、たるませずベルトが見えるように着用する。
 - ② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ③ 肩の部分をたくし上げない。
 - (2) ユニフォームの上着に個人名は入れない。また、ノースリーブの上着は認めない。
 - (3) ストッキングについて次の通りとする。
 - ① 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
 - ② ハイカットストッキングは禁止する。
 - ③ 選手によってミドルカットやローカット、紺や黒等が混在しないようにチームで統一する。
 - (4) 帽子は前髪が見えないように深くかぶる。

(公財)全日本軟式野球連盟規程細則には、「ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、都道府県に関連するものをつけることができる。」と記されている。本大会では特に規定はしないが、この規程に沿ったものを推奨する。

- 6 ユニフォーム・頭髪・用具類は、中学生らしく、華美にならないように留意すること。
- 7 選手の背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
- 8 試合前(打順表提出時)に大会本部に申し出て許可を得た場合に使用できるものは、次の通りとする。
 - (1) 医療目的でのサポーター(手首や指を固定、保護する目的のもの)の使用は認める。ただし、色は白・黒・ベージュの一色のものとする。
 - (2) テーピングの使用は認める。露出する部分については、肌の色に近いものを使用する。投手は、打球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
 - (3) アームスリーブは、医療目的に限り使用は認める。色はアンダーシャツと同色のものとし、商標は目立たないようにする。ただし、投手以外が使用する場合には、片方の腕だけに着用することを認め、投手が使用する場合は、片方の腕だけに着用することは認めない。
 - (4) 健康上の理由及び球場の条件によってサングラスの使用は認める。ただし、メガネ枠は黒、紺、またはグレーなどとし、メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内とする。グラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内とする。また、著しく反射するサングラスの使用は認めない。
- 9 野球用の手袋は「打者」「走者」「投手以外の守備」に使用できる。手袋とサポーターの一体型のものの使用も認める。色は白・黒の一色のみとする。ただし、一回り大きいサイズの走塁用手袋は使用不可。
- 10 リストバンド・リストガード・レッグガード・エルボーガード・手甲ガードは原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、攻守の決定時に大会本部に申し出て許可を得る。
- 11 滑り止めスプレーの使用を禁止する。

- 12 マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。
- 13 用具装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。
- 14 試合会場の施設状況により、会場特別ルールを設定することもある。
- 15 試合進行や大会運営の円滑化のため、次のことに留意する。
 - (1) 無用なタイムをとることを慎む。
 - (2) 先頭打者とベースコーチは攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置につく。
 - (3) 出塁した際、バッティング手袋をベースコーチに渡さず、自分のユニフォームのポケットの中に入れておく。走塁用手袋に変えるためにタイムをかけ、試合の進行を遅らせてはならない。
- 16 4回裏終了後、及び7回裏終了後に補助員によるグラウンド整備を行う。バッターボックスは整備後にラインを引くが、ピッチャーズマウンドには整備を入れない。また、5回表、及び8回表（タイブレーク方式の1回表）の投手の準備投球は3球とする。
- 17 雨天・日没により試合続行不可能（5イニングで試合は成立）な場合は、後日に中断時の条件のまま再開（サスペンデッドゲーム）とする。中断・再開等の判断については、選手の健康上の管理も含めながら会場責任者及び審判員の意見を十分に考慮し、県中体連事務局と専門部（大会本部）の合議で決定する。
- 18 雨天等による大会実施可否の判断及び日程の変更については大会本部で決定する。
- 19 試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合、起こしたチームが責任を負うべきであるから、そのチームを敗者とする。
- 20 試合開始・終了の礼は両チームが同時に行う。大会本部・審判員及び相手チームへの挨拶は不要である。
- 21 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援席への挨拶は認める。
- 22 各チームの監督またはコーチは、試合終了後に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。
- 23 応援については監督が責任をもつ。
- 24 応援団は次のことを守って応援をすること。
 - (1) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
 - (2) 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側の時は、座っていることが望ましい。応援の切り替えは3アウト成立時とする。
 - (3) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことは禁止する。
 - (4) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
 - (5) 試合を妨害するような応援はしない。
 - (6) メガホンを使用してもよい。
 - (7) 笛（ホイッスル）は使用してもよいが、投手が投球動作に入ると同時に突然使用したり、使用をやめたりするなど投手の投球に影響を与えるような使用は慎む。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどの時に、笛で盛り上げることをないようにする。
 - (8) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
 - (9) 応援用の横断幕は、スタンドフェンスのグラウンド側ではなく観客席側につける。
- 25 参加チームの保護者代表者はゴミ袋を準備し、責任をもって後片づけを行い持ち帰ること。弁当の空き箱についても業者に確認し、確実に処分すること。

【試合開始前】

- 26 監督に引率されたチームは、試合開始1時間前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延の場合は、大会本部で協議し決定する。

- 27 打順表の提出は、その日の第1試合は試合開始予定時刻の40分前、第2試合以降は前の試合の4回終了時とする。ただし、勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、試合開始予定時刻の20分前とする。監督と主将は打順表を5部(本部・審判・放送・相手チーム・自チーム)持参し、登録原簿と照合ののち、球審立会いのもと攻守を決定する。**※放送がない場合は4部提出**
- 28 シートノックについては以下の通りとする。ただし、希望しないチームは攻守決定時に申し出る。
- (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合この限りでない。
 - (2) 試合開始30分前、後攻側から始め、時間は5分以内とする。状況(秋季大会初日の日没を考慮する場合も含む)によっては短縮または省略またはサイドノックに変えることもある。
 - (3) 監督・コーチ・登録選手の他に、3名の補助員(当該校生徒)をつけて行うことができる。補助をする選手と選手以外の補助員は、必ずヘルメット着用のこととする。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手のブルペンでの投球練習は認める。
 - (5) マウンド付近は使用しない。また、危険防止のためボールケースは補助員が必ずもつこととする。
- 29 ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。
- 30 相手のシートノック時に審判員または大会役員による服装・用具検査を行う(シートノックを行わない場合は、ベンチの入れ替え後すぐに行う)
- 31 次の試合のバッテリーの投球練習については、先発バッテリーに限り、打順表の提出・攻守決定終了後、試合に差し支えないように球場内のブルペンでの投球練習を許可する。ただし、球場外にブルペンがある場合には球場外のブルペンを使用する。服装は試合用ユニフォームとし、捕手は捕手の装具を全て着用する。
- 32 勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合、2試合目の開始時刻は、1試合目終了から40分後を原則とするが、天候によっては大会本部で判断することもあるのでこの限りではない。
- 33 ユニフォーム着用者以外のグラウンド内の立ち入りを禁止する。ただし、第1試合チームは打順表の交換までは、チームで統一されたシャツ等も可とする(アンダーシャツのみは禁止する)。天候等で選手の健康面に配慮する場合についてはこの限りではない。

【試合中】

- 34 選手交代の申し出は、監督が行う。
- 35 ベンチ内でのメガホン使用は、監督、コーチ、部長のいずれか1名のみに限る。また、電子機器類の使用は、電子スコア記録用としても認めない。
- 36 選手以外は、コーチスボックスに入ることはできない。
- 37 グラブのひもの長さは危険防止のため親指の長さ程度とする。
- 38 捕手の装具は連盟公認のマークのついたものを使用する。マスクはSGマークのついたものとし、スロートガード一体型の場合は、スロートガードをつける必要はない。
- 39 ヘルメットはSGマークのついたものを、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの(例:保護スチロールが外れるもの、保護パット不装着、ひび割れ等)は使用できない。
- 40 攻守交代時の代理捕手は、必ず捕手用ヘルメット・スロートガード付きマスク・プロテクター・レガースを使用する。(なお、ファウルカップの着用が望ましい。)
- 41 バットボーイ、ボールボーイまたはバットガール、ボールガールは、その仕事にたずさわっているときは、両耳フラップヘルメットを着用しなければならない。
- 42 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。
- 43 投手(救援投手を含む)の準備投球数は初回に限り、7球以内(1分を限度)が許される。次回からは、3球以内とする。(ただし、球審が状況を考慮する。)
- 44 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。
(競技者必携 競技に関する連盟特別規則 参照)
・大会中の1日の投球数・・・100球

・ 1 週間の投球数 . . . 3 5 0 球

※ 試合中に 1 0 0 球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。

- 45 監督が投手のところに行く回数の制限について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からフェールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
- 46 ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、「45」と同じ行為であれば回数に数える。